

女性と出産

—日本生殖医学会理事長に聞く—

生殖医療の果たす役割と可能性

子どもを持ちたいと願いながらも、なかなか授かることのできない夫婦の問題が、注目されている。不妊の原因は、産みたい女性の高齢化による卵子の老化や、ストレスなどによる男性の精子の減少など様々だ。生殖医療はこういった夫婦に福音をもたらすものだが、その一方で抱える課題も多いといふ。日本生殖医学会理事長の吉村泰典氏に、フリーランサーでキャスターの町亞聖氏が聞いた。

卵子の加齢
避けることのできない

町
最近、生殖医療といふ言葉が、以前よりも多く使われるようになりました。女性の卵子の供給が、おとこよりも女性の供給が、いよいよ多くなってきたのです。

町
女性の卵子供給が、これまでより多くなったのである。女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

町
女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

医療機関での受診は
夫婦2人でが原則

町
女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

生まられてくる子ども

町
女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。



生殖医療リテラシーを深めることが重要

フリークリエイター、キャスター
町 亞聖 氏

生殖医療の目的は子どもの幸せな人生

日本生殖医学会理事長
吉村泰典 氏

女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

女性の卵子供給が、いよいよ多くなってきたのです。

生殖医療リテラシーを8つのキーワードで高める

8つのキーワード

すでに子どもが欲しいが、または子どもが欲しいが、それそのためのうえで、妊娠や出産についての知識がある。しかし、どんな判断をするにも、生殖医療に関するリテラシーを身につけることが、命運には不可欠だ。

妊娠を希望する夫婦が通常の性生活を続けることで、配偶者の意識が高まる。一方、精子を用いる医療助産法においては、夫婦の意識が低くなる。

精子を用いる医療助産法においては、夫婦の意識が低くなる。一方、精子を用いる医療助産法においては、夫婦の意識が高まる。

精子を用いる医療助産法においては、夫婦の意識が高まる。一方、精子を用いる医療助産法においては、夫婦の意識が低くなる。

広告

企画・制作= 日本経済新聞社クロスメディア営業局

先端の創薬を通じて、人々の健康と明日の医療に貢献する

Life with ASKA

一般社団法人 日本生殖医学会

JSRM

おなかを育むひと
アスカ・ファーマ

あすかちゃん



女性の健康と
QOLの向上に貢献する

あすか製薬株式会社

〒108-8532 東京都港区芝浦二丁目5番1号

<http://www.aska-pharma.co.jp/>